

# NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 3 LESSON 7 授業例①

H.K. 先生

## 指導計画表

(全 16 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■とびら Q&amp;A</li> <li>■GET (Part1)</li> <li>・文法の導入</li> <li>・語句・表現の導入</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■GET (Part1)</li> <li>・文法の導入</li> <li>・語句・表現の復習(2)</li> <li>・本文の導入・理解</li> <li>・表現の復習(2)</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■GET (Part2)</li> <li>・文法の導入</li> <li>・語句・表現の導入</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>■GET (Part2)</li> <li>・文法の導入</li> <li>・語句・表現の復習(1)</li> <li>・本文の導入・理解</li> <li>・表現の復習(2)</li> </ul>
5	USE <ul style="list-style-type: none"> <li>■Read(1・2)</li> <li>・語句の導入</li> <li>・本文の導入・理解(1)</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Read (1・2)</li> <li>・語句の復習</li> <li>・本文の理解(2)</li> <li>■Read (3・4)</li> <li>・語句の導入</li> <li>・本文の導入・理解(1)</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Read (3・4)</li> <li>・語句の復習</li> <li>・本文の理解(2)</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Read (5・6・7)</li> <li>・語句の導入</li> <li>・本文の導入・理解(1)</li> </ul>

時間	学習内容・主な活動
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Read (5・6・7)</li> <li>・語句の復習</li> <li>・本文の理解(2)</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Read</li> <li>・復習 In-Reading</li> <li>・Post-Reading</li> <li>・Try</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Speak</li> <li>・1, 2, IDEA BOX, 3</li> </ul>
12	Speech① <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材：「これからの人生」</li> <li>・パラグラフライティング</li> </ul>
13	Speech② <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕上げ（清書）</li> </ul>
14	Speech③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> </ul>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>■We're Talking⑦</li> <li>・文法の導入</li> <li>・語句・表現の導入</li> <li>・本文の導入・理解</li> <li>・表現の復習</li> </ul>
16	LESSON 7 まとめの復習

## 実践例

### 生徒の「表現力」を高める授業～「聞く」活動から「読む」「話す」「書く」活動へ

#### 1. コミュニケーション能力の基礎を培う「表現力を高める授業」を目指して

学習指導要領の中学校外国語科の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」とある。

そこで、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」活動に着目していきたい。生徒は「文法」と聞くと、難しい約束事と捉えるような所がある。そこで、表現力を高めるための活動を中心にした活動や教科書の活用の仕方を述べていくこととする。「聞く」「読む」というinputがないとoutputである「話す」「書く」へと発展していかない。それぞれの技能を高めながら、定着を図ることが大切である。

#### 2. LESSON 7 指導の具体例

① とびら Q&Aの活用

② GET (Part1, 2)

(1) 新出事項の導入

①Part 1 (want 人 to do) の例文

A : What do you want to be in the future ?

B : I want to be a cook because I like cooking.

A : Do your parents agree with you ?

B : No, they don't.

Because my father is a doctor.

So he wants me to be a doctor.

A : That's too bad.

②Part 2 (間接疑問文) の例文

(On the phone)

A : If you are free, let's go fishing.

B : Oh, I'm sorry.

I'm going on a trip with my uncle.

A : Where are you going ?

B : We don't know where we will go.

A : Oh, you can join a mystery tour.

Have a good trip.

B : Thank you we will !

#### ◎活動手順

- I 教師が一人二役（またはTT）で対話文を生徒に聞かせる。文字がない分しっかりと内容を考えさせる。
- II 生徒は英文を聞きながら1文ずつ日本語にしていく。
- III 対話文をノートに貼り、ペア・ワーク〔教師－生徒、生徒－生徒〕を行う。
- IV 対話文を暗記する。①生徒は目をつぶる。②教師の読む文をrepeatする。③教師の読む日本語を英語に直す。④ペア・ワークで、じゃんけんで勝った方が1文ずつ日本語を言う。それに合わせて負けた方が日本語に直す。英語に直せない場合は、勝った方が英文を読み、負けた方がrepeatをする。⑤最後の文まで行くと交替する。⑥文字を見ないまま、A・Bそれぞれ表現する。最後まで行くと交替する。
- V 書き取り (dictation) の活用
  - ①slow・②rapid・③naturalの3段階のスピードを2セット教師が読み、生徒はノートに書き取っていく。読みや文の暗記練習を行った後であるので、純粋に書き取り練習とは言えないが、覚えた文についての音を聞いて文字(文)を書く練習を取り入れることで、書ける喜びに繋がっていく。

(2) 本文の導入

I CD を 4 回聞かせる。

- 1 回目：文字なし
- 2 回目：picture cards
- 3 回目：本文
- 4 回目：アクセント・マーク記載の本文

II Words の確認

Flash cards の活用

- 1 発音 (①文字を見ながら 2 回 listen & repeat, ②2 秒提示した後, カードを隠して 1 回 listen & repeat (5 セット))
- 2 英語の文字を見て生徒が日本語に直す
- 3 日本語の意味を見て生徒が英語の発音をする
- 4 教師の英語を聞いて生徒がスペリングを言う
- 5 日本語の意味を聞いて生徒がスペリングで答える。

III 本文の読みの確認 (Listen & Repeat)

- 1 回目 教科書の活用
- 2 回目 Teacher's Book の活用

アクセント・マークのついている本文を提示し, 強弱を意識させた読みの練習を行う。

IV Q&A の活用

**Part1**

- ①Where is Maria from?
- ②Does Maria want to study abroad?
- ③What is Maria's dream?
- ④Do Maria's parents understand her dream?
- ⑤Does Boris want to be a musician?
- ⑥What is Boris's dream?
- ⑦What do Boris's parents want him to be?

**Part2**

- ①Where is Carlos from?
- ②What is Carlos's dream?
- ③What does Carlos want to do when he became a scientist?

④Does Kumi want to buy many things?

⑤How should we reduce waste?

V 速読への取り組み

①Repeating 練習 (速読を意識させる練習)

Slow reading から始めて faster, faster, faster とだんだん早くなるように教師が読んでいき, そのスピードに合わせて, repeat をさせる。

② 速読を意識した One-minute reading

本文を 2 分間, 声を出して何度も読ませる。読めた回数を記録させ, 1 番多くの回数を読めた生徒に全員の前で model として読ませる。

VI 書き取り (dictation) の活用

本文の repeat の部分の CD を 4 回聞かせながら, 書き取りに取り組みさせる。文と文の間に読まれた英文の空白時間が文を思い起こさせるのに手頃である。

(3)応用(発展)教材

I クロス・ワードパズル (語句の復習)

【ACROSS】

- ⑤：外国へ、海外へ
- ⑥：～すべきである  
～したほうがよい
- ⑧：小さくする、下げる、減らす
- ⑨：～はいかがですか (3語)

【DOWN】

- ①：むだ、浪費
- ②：両方 (とも)
- ③：(～する) かしら (と思う)
- ④：再生する、再利用する
- ⑦：再利用する

[ルール]

- ①対話時間は 2 分間とする。
- ②アイ・コンタクト, うなずくなど表情を豊かにして会話をする事意識する。

- ③相づち表現を活用しながら2分間会話を続ける。言葉のキャッチ・ボールを意識する。
- ④事前に原稿を作成することなく、即興で会話をする。

II 4つの活動

- ①絵を見て会話をする。



- ①自分が絵の主人公になる。
- ②相手が絵の主人公になる

- ②テーマを設定する。

(例) p.83 Word Corner を活用して「これからの人生」をテーマにして自分の将来について、また、相手の将来について free talking を行う。

- ③ある英文からスタートする。

(例) A: Let's talk about our hobbies. What is your hobby?  
 B: My hobby is reading books.  
 A: I want you to tell me about your favorite book. Is it OK?  
 B: Sure...

※book のところは、会話の内容に応じて変えることとする。

- ④ある状況に応じて会話を行わせる。

(例) あなたはあなたの友達と来週の日曜日に映画を見に行く約束をしています。「宇宙」「SF」「恋愛」の3つ候補がありますが「宇宙」についてはあなたはもう見てしまっていました。「宇宙」以外の映画を見に行くように相手を説得してみましょう。

A: We are going to watch a movie next Sunday. Right?  
 B: Yes. I want to watch "Space". How about you?  
 A: Oh, really? I want to...

3. USE Read (Part1, 2, 3)

「読み物」資料について指導する場合、「読む力」をつけさせることが大切である。そこで、「読む力」を分析すると、(1)音読力、(2)内容読解力の2つに分けることができる。そこで、「音読」や「黙読」の指導及び内容理解を図る「読解」のための活動について述べることとする。

(1) 授業での「表情豊かな音読」指導

表情豊かな音読のねらいには、I「正しく読める」、II「豊かに読める」の2つがある。

I 「正しく」読む指導

- ①Listening : CD を3回聞かせる。
- ②模範読み：到達目標として自然な速度で読む。次に、内容理解の手がかりとして比較的ゆっくりと読む。「単語レベル」では、「発音・アクセント」, 「文レベル」では、「イントネーション, 区切り, 強勢」, 「文全体」では、フレーズごとの「まとまり」などに気をつけて読む。
- ③Repeating : 教師は上記の「視点」を意識して読み、生徒にも意識させて読ませる。
- ④個人読み：生徒が一人で英文を正しく読めるようにするための練習。3分間で生徒に「視点」を意識させながら読ませる。

II 「豊かに」読むための展開

- ①上記の「視点」を押さえる。
- ②内容理解（教科書の事実や内容についての質問や、聞く活動を通して大意や概要を把握させる。）

(質問の例)

- 1 この写真の少年が住んでいる国はどんな国だと思いますか。

- 2 この物語は何についての話だと思いませんか。
- 3 ウィリアムが行動を起こしたのは何が原因だと考えられますか。
- 4 その地域の人々はウィリアムの行動を理解しましたか。
- 5 ウィリアムは何歳で彼の夢を実現しましたか。
- 6 タイトルの“*We Can Change Our World*”についてとはどういうことか考えてみましょう。

③音読（1まとまり〔1～5〕から1ページの分量）

ア 教師と生徒が1文ずつ交互に読み合う。

イ 1まとまり、又は、1ページ全文を音読させる。

※「豊かに」音読するためには内容を理解した後が効果的であると言われている。

#### （2）授業での「黙読」指導

音読と黙読の違いは「理解」と「読む速度」の違いである。時間は3～7分程度設定する。

- ①音読に入る前の内容理解の段階で行う。
- ②内容についてまとめをする整理の段階で行う。

※①・②とも事前に内容を確認する「質問」をすれば、生徒は「その答え」を求めて「拾い読み」をし、「概要を書くように」例えば、生徒はざっと「走り読み」をするなど目的を持って読むことができる。（質問は英語でも日本語でもよい。）

（3）In-reading, Post-reading 及びTry の活用

#### 4. Speak（チャットを楽しもう）

（1）1の①については、原稿なしで即興での会話に取り組みさせる。対話時間は1分間とする。

※1分間の時間を十分に活用できなかったペアには、自己表現活動の「ルール」を思い起こさせる。（うなずきや相づち表現など）

②については、質問に対する答えの文だけ考えさせ、対話を開始させる。

（2）2については、5人以上の級友と会話をさせるようにする。対話時間は1分以上とし、全体で10分間を確保する。また、質問に対する答えの文だけ考えさせることとする。

（3）IDEA BOX の活用

（4）Speech の作成

Word Corner を振り返らせながら、「これからの人生」という題材でSpeechに取り組みさせる。

I パラグラフライティングの作成

導入・第1・第2・結論の4つのパラグラフに取り組みさせる。生徒によっては、①先に日本語を書かせて、英語に直させる。②直接英語で書かせる。

II スピーチの発表（5項目）

以下の5つの視点を意識して発表させる。

- ①アイ・コンタクト
- ②声量
- ③間（ポーズ）
- ④表情・身振り（ジェスチャー）
- ⑤絵・写真・図・小物等の活用

#### 【参考文献】

塩澤利雄(1992)『精読』・『音読と黙読』ECOLA  
英語科教育実践講座3(読むことの指導)